

2006年1月10日 中京大学図書館発行

ことばの散歩-10-

## カレンダーのお話し-1-

図書館長 安村 仁志

私たちの生活に切り離せないものにカレンダーがあります。お手元のカレンダーを見てください。一週間は日曜日から始まっていますか、それとも月曜日からですか。以前は、だいたい日曜日から始まっていましたが、最近は月曜日からのものも多くなりました。なぜでしょう。

わたしたちが親しんでいるカレンダーは西欧風のもので、その文化の背景としての聖書・キリスト教から考えてみましょう。新約聖書中に「週の初めの日」という表現が出てくる場所をひろって見ますと、福音書ではキリストが復活した日となっています。一方、旧約聖書「創世記」1-2章には天地万物の創造が第一から第六の日までになされ、第七の日神は「安息された」とあり、それに基づいて「モーセの十戒」（「出エジプト記」20章）で、六日間働いて、七日目を「安息の日」とするよう定められました。キリスト教も十戒を尊重しています。

となりますと、七日間で成る一週は安息日をもって終わることになります。「マタイによる福音書」28章1節の「さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方」はそれを示しています。このように、キリストの時代のユダヤ人社会では、今日の「休みの日」は「安息日」として週の七日目にあたっていました。一方、キリスト教が形成されていくと、「使徒行伝」20章7節にあるように、週の初めの日にパンを裂く（最後の晩餐を記念し、キリストの十字架を想起する）ため集まるようになりました。この日はキリストの復活の日ですから、キリスト教徒にとっては「安息日」とともに大切なものとなりました。そして、キリスト教の独自性が明確になるにつれて、これら二つの日がともに大切にされてきたことから、「週の初めの日」に一本化されるようになっていきました。そして、4世紀の初めに、この日はついにコンスタンティヌス帝により祝祭日と定められたのでした。ところで「週の初めの日」とは何曜日なのでしょう。聖書には書かれていませんが、「日曜日」だったようです。

はっきりしてきました。日曜日から週が始まると七日目の「安息日」は土曜日にあたります。この定式でいきますと、日——土式のカレンダーになります。しかし、「週の初めの日」である日曜日がキリスト復活の日として礼拝する日となっていくと、実質的に日曜日が「安息日」となり、矛盾するようですが月——日式カレンダー登場の道が開けてきます。六日間働いて一日休むという考え方に近く、今日の「週末」のイメージにも馴染むものともなります。

ここいらで各国の一週間の曜日名から探ってみましょう。

English Sunday—Monday—Tuesday—Wednesday—Thursday—Friday—Saturday

Dutch zondag—maandag—dinsdag—woensdag—donderdag—vrijdag—zaterdag

このように、ゲルマン系の英語、オランダ語では、天体・神話系の名前が使われています。

German Sonntag—Montag—Dienstag—Mittwoch—Donnerstag—Freitag—Samstag

同じゲルマン系のドイツ語には、基本的には上と同じなのですが、面白い情報が込められています。水曜日が「真ん中の日」となっており、日——土式にヒントを与えています。

sunnudagur — manudagur — þriðjudagur — miðvikudagur — fimmtudagur — fostudagur — laugardagur これはアイスランド語ですが、火曜日、木曜日に「第三の日」、「第四の日」という数字系が使われていますが、木曜日が第四の日となると混乱してきます。月——土式の痕跡が混ざっています。しかし、こういう混在はロシア語などのスラヴ系言語にも見られます。

Russian воскресенье—понедельник—вторник—среда—четверг—пятница—суббота

Serbo-Croatian nedelja—ponedeljak—utorak—sreda—četvrtak—petak—subota

ともに火、木、金曜日が「第二」、「第四」、「第五」の日で、月——日式になっているのですが、水曜日が「真ん中の日」で、日——土式が混在しています。ロシア語もかつてはそうでしたが、セルボ・クロアチア語に興味深い語が見られます。日曜日が「ニエヂェーリャ」で、「仕事をしない」といった意味をもち、安息日＝日曜日が暗示されています。

ラテン系の言語を見てみましょう。

Italian domenica—lunedì—martedì—mercoledì—giovedì—venerdì—sabato

Spanish domingo—lunes—martes—miércoles—jueves—viernes—sábado

French dimanche—lundi—mardi—mercredi—jeudi—vendredi—samedi

共通しているのは、日曜日が「主の日」、月曜日から金曜日までが惑星系の呼び名、土曜日が「安息日」となっていることです。この場合は、キリスト教的考え方と惑星系の非キリスト教的考え方の混在が見られます。ところが、同じラテン系でもポルトガル語は違います。

domingo—segunda-feira—terça-feira—quarta-feira—quinta-feira—sexta-feira—sábado と、日、土曜日は同じですが、月から金曜日までが「第二」から「第六」の日と順序数詞系になっているのです。上に見た基本的な考え方が最もよく反映されているといえましょう。現代ギリシア語もそのパターンですが、金曜日が「準備の日」となっています。

Greek Κυριακή—Δευτέρα—Τρίτη—Τετάρτη—Πέμπτη—Παρασκευή—Σάββατο

こうして見てきますと、私たちが一番親しんでいる英語の曜日名は惑星・神話系で、非キリスト教的ですが、これはローマの考え方を忠実に踏襲していると見えます。なぜなら、以下のラテン語曜日名に見られる惑星をゲルマン神話の神に置き換えているからです。

Solis dies—Lunae dies—Martis dies—Mercurii dies—Jovis dies—Veneris dies—Saturni dies

太陽 月 火星 水星 木星 金星 土星

Tuesday(Tyr's Day=Day of Mars) Wednesday(Wodan or Odin's Day= Day of Mercury)

Thursday(Thor's Day= Day of Jupiter) Friday(Freyr or Freya's Day= Day of Venus) です。

ところで、一週間が7日というのは当たり前のように思われますが、近世以降でもフランス革命期(1793-1805)に1週＝10日制(時間なども10進方式にしました)、1929年から一時期ソ連で1週＝5日制が採用されましたが、短命に終わっています。月日のたつのが年々早く感じられるのは私だけでしょうか。仮に私だけとしても、社会全体が忙しくなっていることは間違いないところでしょう。もう少しのんびり過ごしたいものです。

## 定年後の図書館利用

原 光明

25年前に八事団地に転居してきた。オープングラウンドで走ったりして遊んだ。建物に入ったのは、団地の総会で本館の会議室を借用するときだけだった。10年前に定年。仕事から解放され、自由になった。途端に生活時間が狂い出した。

そんな折り、オープンカレッジが開始され、1週間に1日90分の授業を受けた。文学・福祉・運動・仏像等あまり肩の凝らないものを受講した。そして、図書館の利用というおまけが付いた。新聞や雑誌を読んだり、ビデオを見たり、五万分一の地図を見たり、開架図書から読みたい本を借りたりした。

唯一の趣味だった旅行も、航空機運賃のバーゲンフェアが始まり、サンデー毎日の僕にはぴったり。冬は沖縄に、夏は北海道に、毎年数回ずつ1週間から10日、安い航空運賃で行けるようになった。最新の地方ニュースを知る為の北海道新聞や西日本新聞は欠かせない。中日・読売・日経新聞も欠かさず読み、たまには株式新聞まで読むようになった。旅行ガイドや地誌・歴史の本から旅行先に、どこに・何が、どういふものか予め分かっていたら、無駄なくスムーズに旅行ができる。全国隈なくある五万分一の地図から地形や距離を読み取り、立体的に頭に描くことができ、土地の様子が分かってきて、旅行に行く前からうきうきした気分だ。

視聴覚室のビデオもよく見た。「エデンの東」・「王様と私」・「マイフェアレディ」等の懐かしい名作から、「もののけ姫」・「ハリーポッター」まで、ある年に集中的に見た。2時間以上座って見るのが苦痛になって、この頃は見ない。

開架図書は、中身をざっと見ることができ、カタカナの多いもの、数字の多いものは難しうなので敬遠している。月に4冊ぐらい借りている。経済関係のものが多く、ガラスケースの新刊図書、返された読まれた本、ページ数の少ない新書本等が多く、文学書はほとんど借りたことは無い。3か月分保存してある新聞を時々借りて、TVやラジオで話題になっていることを調べ、必要ならコピーをしている。それ以前のことは、本館の新聞の縮刷版を見るが、裏の記事までコピーされて見にくい。

以前は、各県・各市町村の歴史の本が閲覧できたので、旅行の時にはちよくちよく利用していた。法学部の図書館は、近いので新聞を読むのに利用している。開架図書は、難しい法学の本ばかりなので、めったに借りない。

今年10か月の利用は、LSC54回。本館7回、法学部12回の合計73回。同じ日に利用したこともあるので5日に1回ぐらいの割り。

知識を得、生活リズムも整う図書館は、本当に有り難い。

## 新着図書セレクト

友人の言葉を注意深く聞くように読書する人に対しては、  
書物は心を開き、その人のものとなるであろう。

b y ヘッセ

\* 10～11月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介します \*



『あなたの知らない政治の世界：永田町インサイド』

(日本経済新聞政治部編・日本経済新聞社)

請求記号：312.1/N 71, 所蔵：TL

「政治はつまらないから、人任せ」を返上できる、とびきり面白い  
永田町ガイド。

『「創造と変化」に挑んだ6人の創業者』

(志村和次郎著・日刊工業新聞社)

請求記号：332.8/Sh 56, 所蔵：LSC



近代産業の礎を築いた6人に、今、企業経営に必要なイノベーション  
手法を学ぶ。

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
007.58/R 68	『検索エンジン戦争：インターネットの覇権をめぐる興亡と争奪戦の物語』(ジェフ・ルート, 佐々木俊尚著・アスペクト)	LSC
019.9/Sa 25	『誤読日記』(斎藤美奈子著・朝日新聞社) ワイドショー気分 で読みまくり全175冊!! ミーハー書評の決定版。	LSC TL
080/Ko19/1799	『昭和零年』(桐山桂一著・講談社現代新書) 1925年=昭 和零年生まれの30人が戦後60年に贈る痛切の証言。	LSC TL
140.75/Sl	『心は実験できるか：20世紀心理学実験物語』(ローレン・ス レイター著・紀伊國屋書店)	NL TL
141.5/W 46	『考え方のつくり方：自分のアタマで考えるメソッド』 (渡辺パコ著・大和書房) 誰でもできる! 思考のデザイン。	TL
175.1/Mi 63	『靖国問題の原点』(三土修平著・日本評論社)	TL
210.75/N 97	『「終戦日記」を読む』(野坂昭如著・日本放送出版協会) あの時代、大人たちは何を考え、どう生きてきたのか。	LSC
289.1/Y 91	『本田宗一郎と井深大に学ぶ現場力』 (吉村久夫著・日本経済新聞社)	LSC

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
302.53/I 33	『そうだったのか!アメリカ』(池上彰著・ホーム社)	L S C T L
320/To 29/1	『個を支えるもの』(岩村正彦, 大村敦志編・東京大学出版会)	L L
336.49/Ko 12	『そのバイト語はやめなさい: プロが教える社会人の正しい話し方』(小林作都子著・日本経済新聞社)	L S C
361.4/O 67	『間合い上手: メンタルヘルスの心理学から』 (大野木裕明著・日本放送出版協会)	L S C T L
494.2/Sa 45	『手術を受ける前に読む本: これだけは知っておきたい基礎知識』(佐久間哲志著・講談社)	T L
498.3/A 39	『足力(あしりょく): 対象年齢・幼稚園児・100歳男女まで』 (阿久根英昭著・スキージャーナル)	L S C
549.067/Sa 32	『椅子とパソコンをなくせば会社は伸びる!』(酒巻久著・祥伝社) 売上は横ばいでも、利益を五年で一〇倍にする方法。	L S C
519.07/Ta 54	『環境を守る仕事と資格: 夢を夢で終わらせないための』 (高島徹治著・同文館出版)	T L
689.8/Ta 47	『リッツ・カールトンが大切にしているサービスを超越する瞬間』 (高野登著・かんき出版)	L S C
694.6/Ko 27	『ケータイ進化論』(小檜山賢二著・NTT出版)	T L
704/Ma 74	『眼の冒険: デザインの道具箱』(松田行正著・紀伊國屋書店) 世界の見え方が変わるデザイン・エッセイ!	T L
723.359/I 69	『ふたりのゴッホ: ゴッホと賢治37年の心の軌跡』 (伊勢英子著・新潮社) 比類のない純粋な魂を宿した画家と詩人の心の内奥をたどる...	T L
723.36/I 29	『美の旅人』(伊集院静著・小学館) ゴヤ,ダリ,ミロ,ピカソ。旅して読み解くスペインの巨匠たち。	T L
726.1/Y 84	『マンガをもっと読みなさい: 日本人の脳はすばらしい』 (養老孟司, 牧野圭一対談・晃洋書房)	L S C T L
812/A 82	『まっとうな日本語』(朝日新聞校閲部著・朝日新聞社) 意外な語源、意味の変遷—知っておきたい150の言葉。	L S C T L
814.5/Me 25	『そこが知りたい気になる日本語』(明治書院編・明治書院)	T L
910.26/H 39	『魅せられて: 作家論集』(蓮實重彦著・河出書房新社)	L S C
913.6/O 78	『カラオケを発明した男』(大下英治著・河出書房新社)	L S C
913.6/Ta 33	『ミヤザワケンジ・グレーテストヒッツ』 (高橋源一郎著・集英社)	T L

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター  
【LL】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です。



# 『星の王子さま』

～図書館員 Y のお薦め本紹介～



B-612

『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ著)を大学1年の時に読みました。つまらなくて、10分で読むのをやめました。大学4年になりました。トリイ・ヘイデン著『シーラという子』に『星の王子さま』のキツネの話がでてきて、また読んでみる気になり、手に取りました。感動しました。以前と感じ方の違う自分にも驚きました。それから好きで、たびたび手に取るようになりましたが、良い本とは、読むたびに新しい発見・感動がある、繰り返しの再読に耐える本のことだと改めて思いました。『星の王子さま』はまさに名作です。子どもが読むだけの本にとどめておくのはもったいない。

ちょうど昨年、日本での著作権切れに伴って、新訳がさまざまな出版社から続々と出版され、ちょっとした話題となっています。私たちが子どものころから慣れ親しんでいるのは、内藤濯訳・岩波書店発行の『星の王子さま』ですが、翻訳本は翻訳者によって、言い回しや意味合いが違ったものになるというのは、皆さんご存知の通りです。内藤濯訳の『星の王子さま』は子どもが読みやすいように訳されているのに対して、今回出版された新訳は大人向けのものが多く、内藤訳とはまた違う雰囲気になっています。新たな『星の王子さま』の世界が広がるのは間違いありません。

この冬、『Le Petit Prince』を読み比べてみるのも、おもしろいのではないのでしょうか。

## ☆ 最近出版された新訳の紹介 ☆



『新訳 星の王子さま』

倉橋由美子訳  
宝島社

請求記号：953.7/Sa 22  
所蔵：LSC



『星の王子さま』

池澤夏樹訳  
集英社

請求記号：953.7/Sa 22  
所蔵：LSC



『新訳 星の王子さま』

小島俊明訳  
中央公論新社

請求記号：953.7/Sa 22  
所蔵：LSC



『星の王子さま』

三野博司訳  
論創社

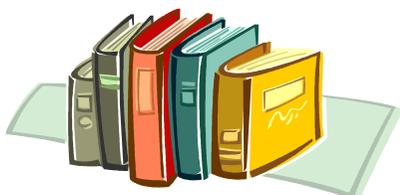
請求記号：953.7/Sa 22  
所蔵：LSC

## 本学教員著作の寄贈図書

請求記号	タイトル	出版社	著者	所蔵館
338 / Ka52	新しい時代の金融システム	中京大学 経済学部 附属経済 研究所	経済学部 千田純一	LSC TL
361 / Ma64	あたらしい自画像 「知の護身術」としての社会学	三元社	教養部 ましこひで のり	LSC TL
361 / Ma64	たたかひの社会学 第2版 悲喜劇としての競争社会	三元社	教養部 ましこひで のり	LSC TL
374.92 / Ki61	「提言」学校安全法 子どもと学校を守る安全指針	不磨書房	法科大学院 橋本恭 宏	LSC
375.13 / Su33	犬山の少人数授業 協同原理を生かした実践の事 例	一粒社	教 養 部 杉江修治	LSC
388 / Su96	「英雄」伝承の世界 神話と歴史のはざまをゆく	中日出版 社	社会学部 鈴木道子	LSC NL TL
780 / O22	スポーツ六法	信山社	体育学部 守能信次	LSC
811.2 / Ma26	漢字の未来	朝倉書店	教養部 ましこひで のり	LSC

\*敬称略

☆ご寄贈ありがとうございました



## 図書館カレンダー

1 月

日	月	火	水	木	金	土
<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	6	7
<b>8</b>	<b>9</b>	10	11	12	13	14
<b>15</b>	16	17	18	19	20*	21
<b>22</b>	23	24	25	26	27	28
<b>29</b>	30	31				

2 月

日	月	火	水	木	金	土
			①	②	③	④
<b>5</b>	6	7	8	<b>9</b>	10	11
<b>12</b>	13	14	15	16	17	18
<b>19</b>	20	21	22	23	24	25
<b>26</b>	27	28				

3 月

日	月	火	水	木	金	土
			①	②	③	④
<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>11</b>
<b>12</b>	13	14	15	16	17	18
<b>19</b>	20	<b>21</b>	22	23	24	25
<b>26</b>	27	28	29	30	31	

4 月

日	月	火	水	木	金	土
						①
<b>2</b>	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
<b>9</b>	10	11	12	13	14	15
<b>16</b>	17	18	19	20	21	22
<b>23</b>	24	25	26	27	28	<b>29</b>
<b>30</b>						

5 月

日	月	火	水	木	金	土
	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	6
<b>7</b>	8	9	10	11	12	13
<b>14</b>	15	16	17	18	19	20
<b>21</b>	22	23	24	25	26	27
<b>28</b>	29	30	31			

6 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
<b>4</b>	5	6	7	8	9	10
<b>11</b>	12	13	14	15	16	17
<b>18</b>	19	20	21	22	23	24
<b>25</b>	26	27	28	29	30	

無印は通常開館です。

通常開館時間

名古屋図書館

豊田図書館

ライブラリーサービスセンター

法学文献センター

平日

土曜日

9:00～18:00

9:00～12:30

9:00～20:00

9:00～17:00

9:00～22:00

9:00～17:00

9:00～18:00

9:00～12:30

■ は休館日

■ は名古屋3図書館は休館、豊田図書館は開館

□ の開館時間(平日 9:00～16:00 土曜日 9:00～12:00)

○ の開館時間(平日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30)

1月21日(金)は名古屋3図書館は通常開館、豊田図書館は9:00から17:00の開館

臨時休館日

1月21日(土) 豊田図書館は開館、名古屋3図書館は休館(センター入試の為)

2月1日(水)～4日(土) 豊田図書館は開館、名古屋3図書館は休館(入試の為)

2月8日(水) 豊田図書館は開館、名古屋3図書館は休館(入試の為)

2月9日(木) 全館休館(入試の為)

3月6日(月)～11日(土) 全館休館(蔵書点検の為)